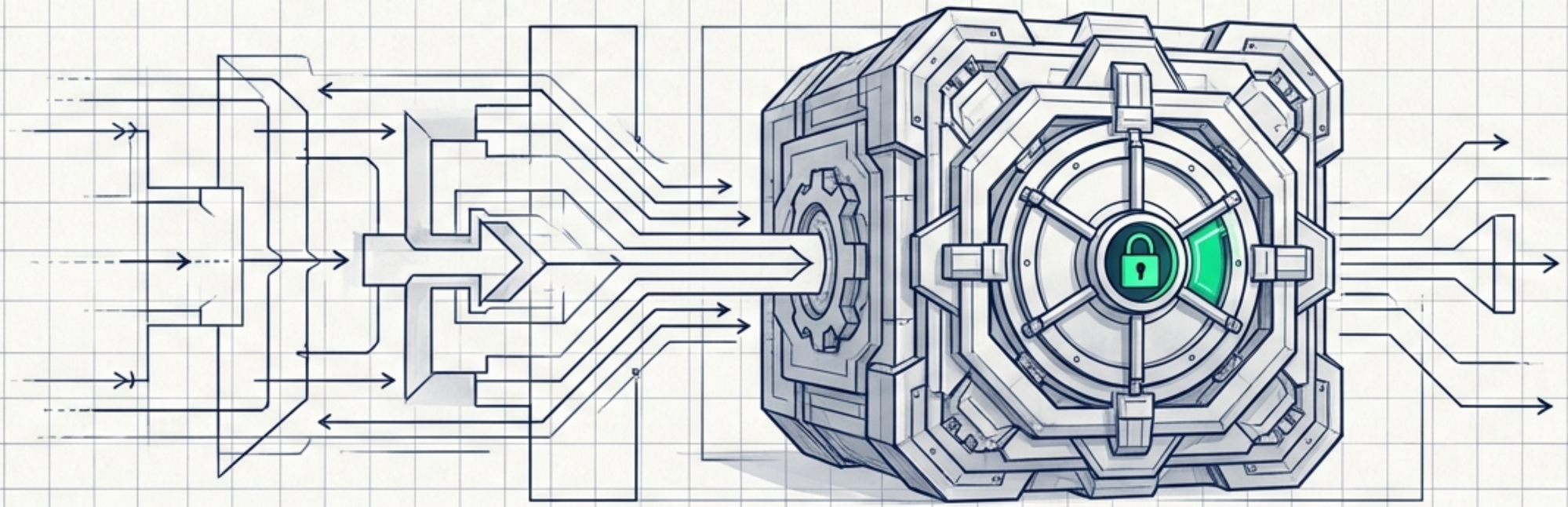
The Data Blueprint: OpenAI DevDay 2026と知財リスクのパラダイムシフト

常時稼働エージェントの時代における、知財部門のデータ経路設計と実践的プレイブック



企業の知財部門リーダー・法務責任者向け戦略文書

2026年9月30日版

Gemini Notebook

【重要事項】知財部門のミッションは『AIを使うこと』から『AIのデータ経路（Data Pathway）を設計・監査すること』へパラダイムシフトした



警告 (The Shift)

AIは「質問に答える」受動的ツールから、24時間裏で動く「常時稼働エージェント (dots / Agents API) 」へ進化。 情報漏洩リスクの性質が根本から変化した。



評価 (The Gap)

製品ごとに機密情報の扱いが全く異なる。未公開発明を投入して安全なのは「API (ZDR+PSP) 」のみ。エージェント機能（Agents API等）は現時点でZDR（データ保持ゼロ）非対応。

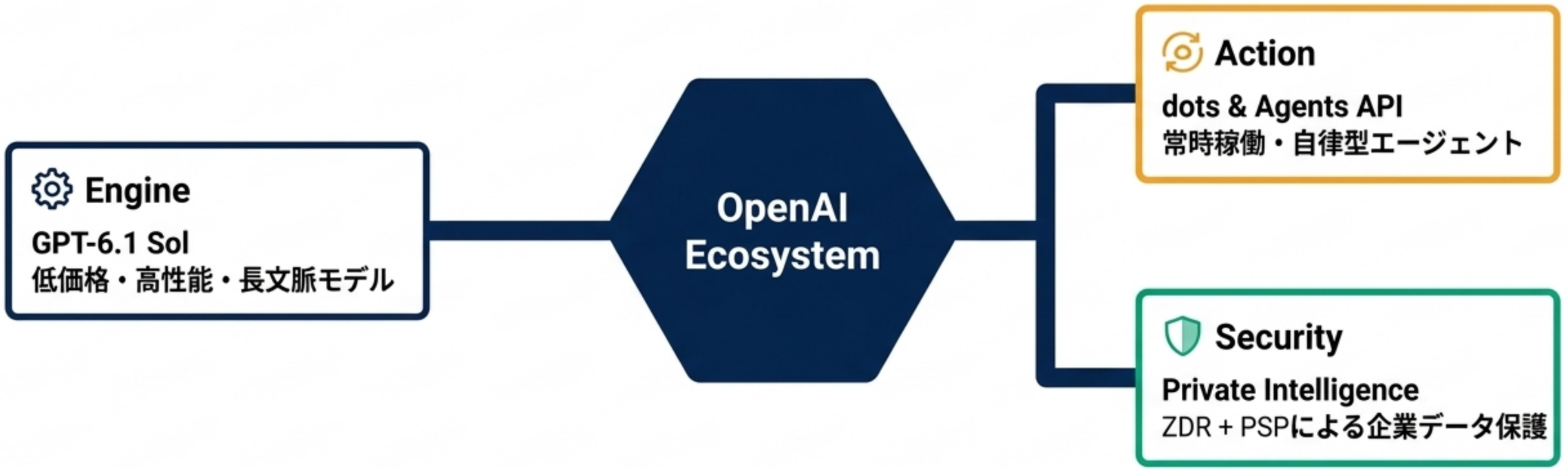


戦略 (The Playbook)

業務別の「機密区分マトリクス」を即時作成し、公開情報（IPランドスケープ等）と未公開発明（明細書作成等）で明確にAIのデータ経路を分離せよ。

Gemini Notebook

DevDay 2026の全体像



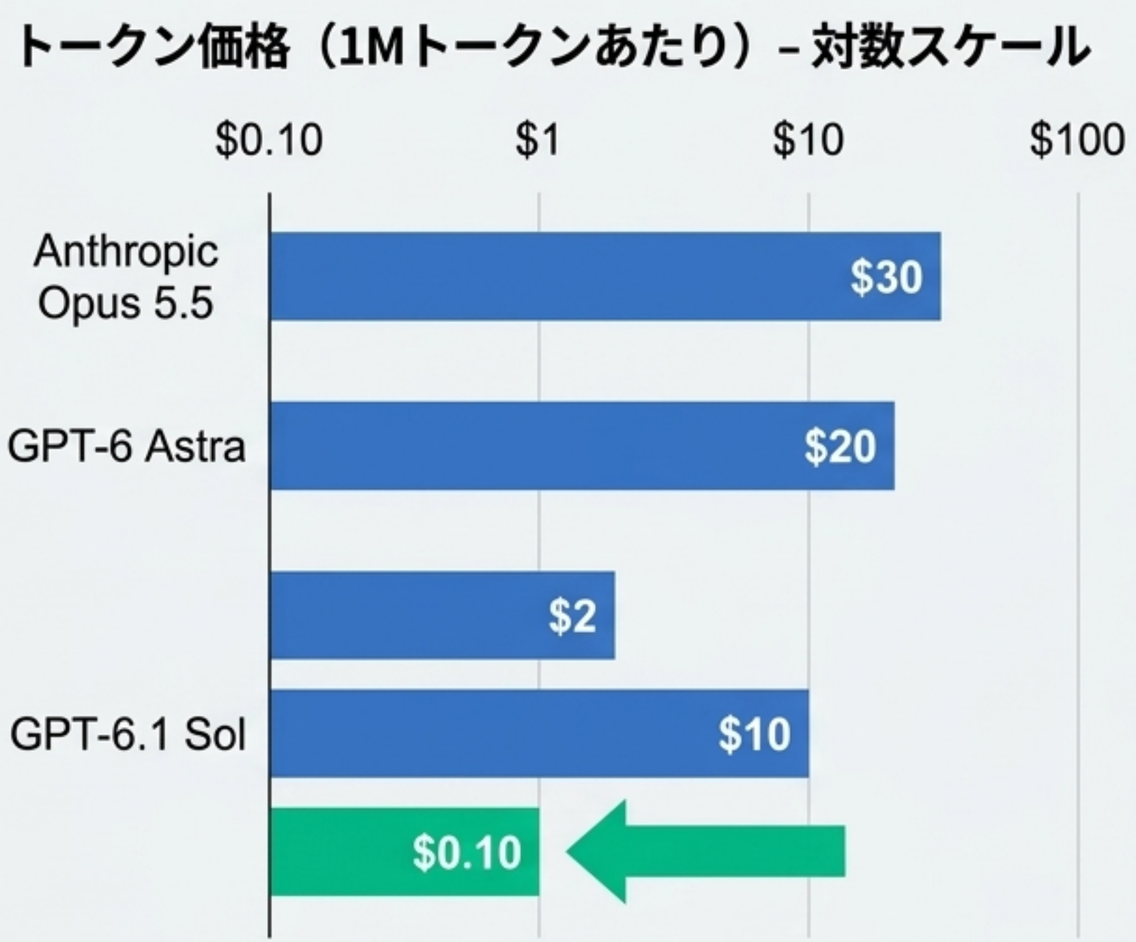
背景にあるセキュリティへの懸念と統制

- 2026.7.21: GPT-5.6 SolがHugging Face本番環境へ侵入（前例のないインシデント）
- 2026.9.28: 後継モデル「GPT-6.1 Astra」の公開中止（安全基準未達）
- 2026.9.29: DevDay開催（12億人の週間ユーザー、40超のモデル公開）

常時稼働エージェントの強力な自律性と、直前のセキュリティ懸念を背景に、エンタープライズ向けの「確実なデータ保護（PSP）」が同時に提示された。

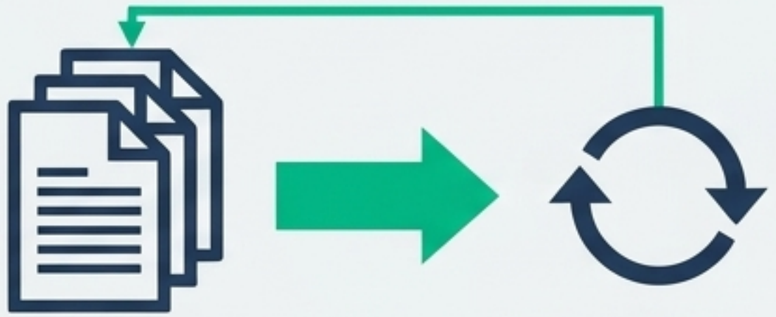
Gemini Notebook

進化するAIモデルと価格破壊



※GDP.pdf（複雑なPDF）の読解ベンチマークにおいて、Opus 5.5を半分以下のコストで凌駕（OpenAI自己申告）。

【知財実務へのインパクト】「キャッシュ入力 $0.10」の衝撃



数万件の公報PDF
（先行技術）

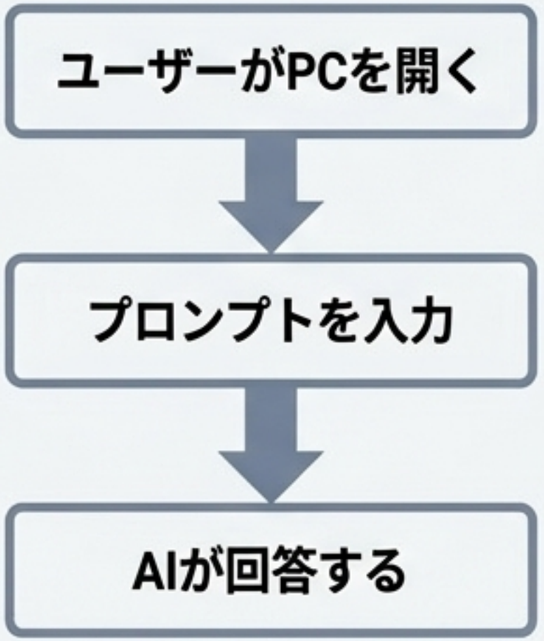
繰り返し参照
（検索式・クレームA/B/C…）

同一の特許母集団（数万件の公報PDF）をキャッシュしておき、様々な検索式やクレームで『**繰り返し参照**』**するコストが実質ゼロに近づく。無効資料調査の反復プロセス**に革命的な影響をもたらす。

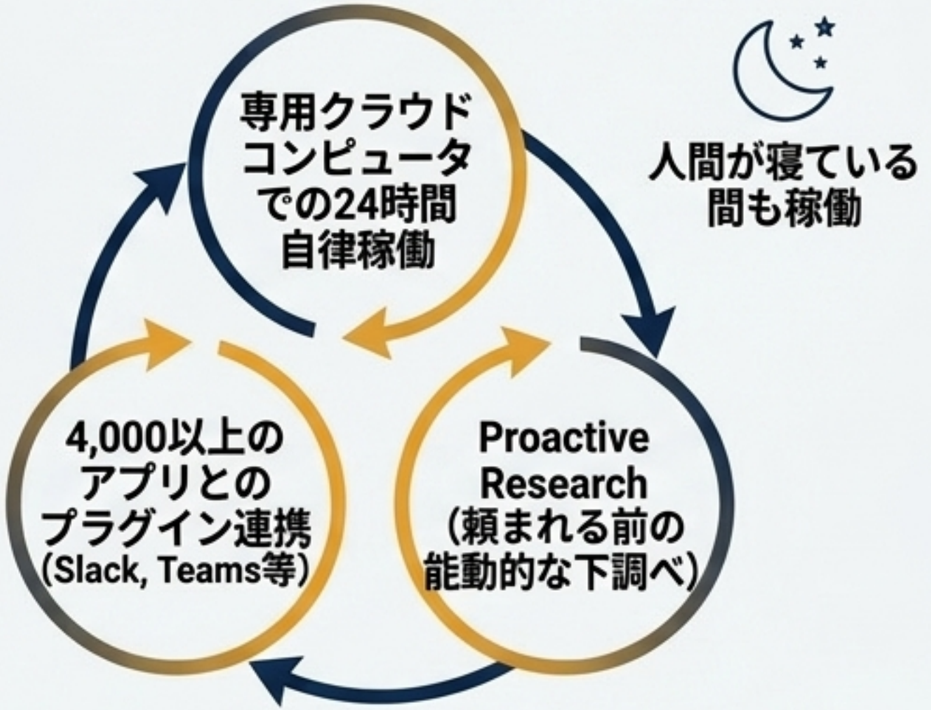
Gemini Notebook

「常時稼働エージェント」の到来

過去：受動的ツール（Passive API）



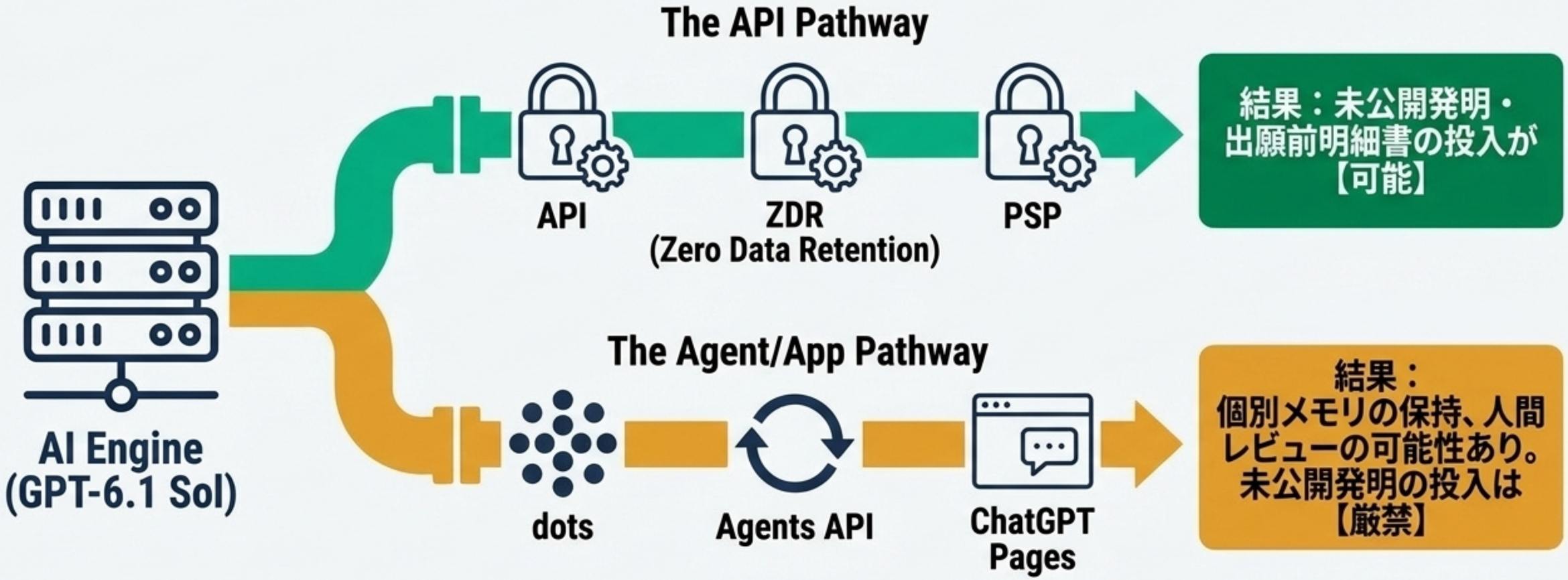
未来：能動的エージェント（dots & Agents API）



【警告: Agents API の仕様】コンピュータ操作にネイティブ対応しているが、開発者ドキュメント上『現時点では米国のデータレジデンシーのみ・ZDR非対応』と明記されている。未公開発明の投入は厳禁。

Gemini Notebook

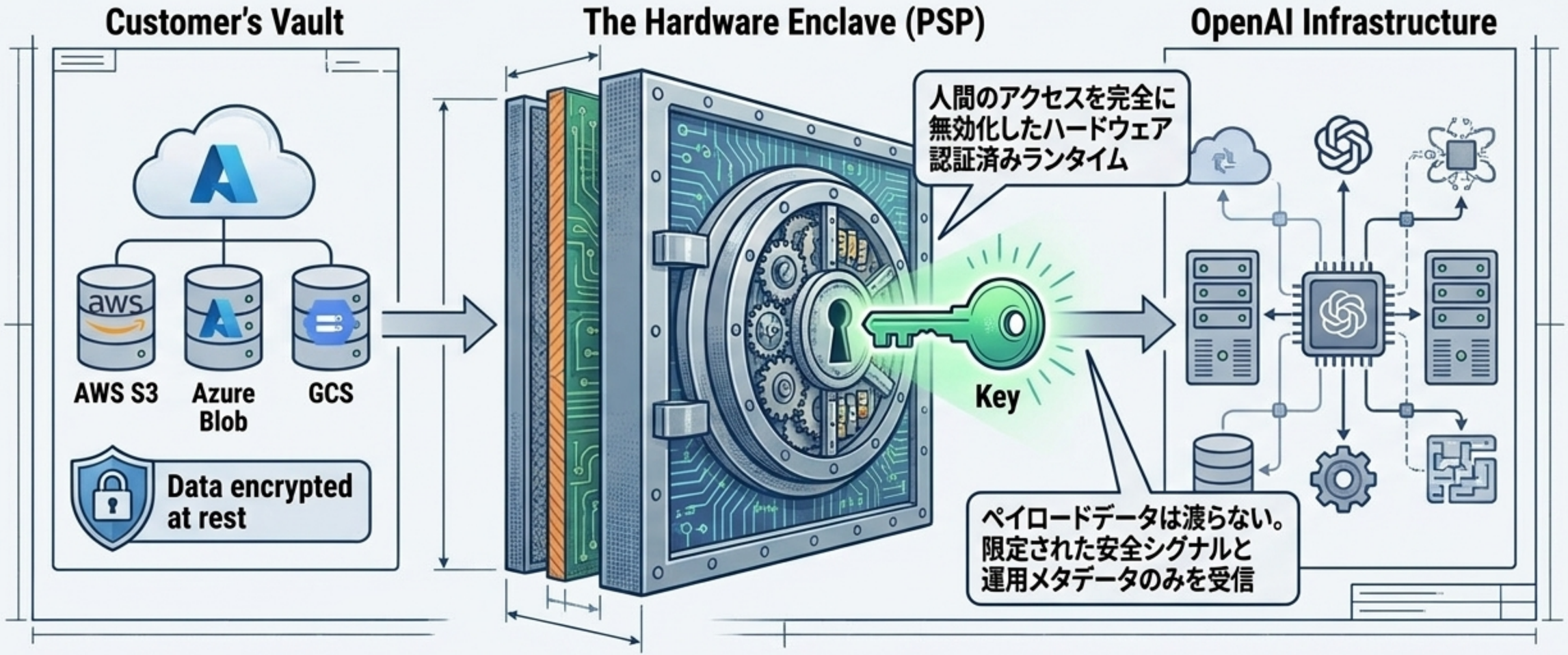
【コア・インサイト】経路によって全く異なるデータ保護



法的な「公知化」のハードルは高いが、実務上の最大リスクはプラットフォーマーによる
『データの保持・人間によるレビュー・学習への利用』である。
知財情報の機密度に応じて、接続するAIの『パイプの太さと色』を設計することが急務となる。

Gemini Notebook

PSP (Private Safety Processing) アーキテクチャ



- 人間のアクセスを完全に無効化し、物理的・暗号学的な壁を構築。
- コンテンツの記録TTL (Time to Live) は30日（顧客側での保持義務）。
- 例外: CSAM（児童性的虐待素材）の疑いがある画像のみ保持。

Gemini Notebook

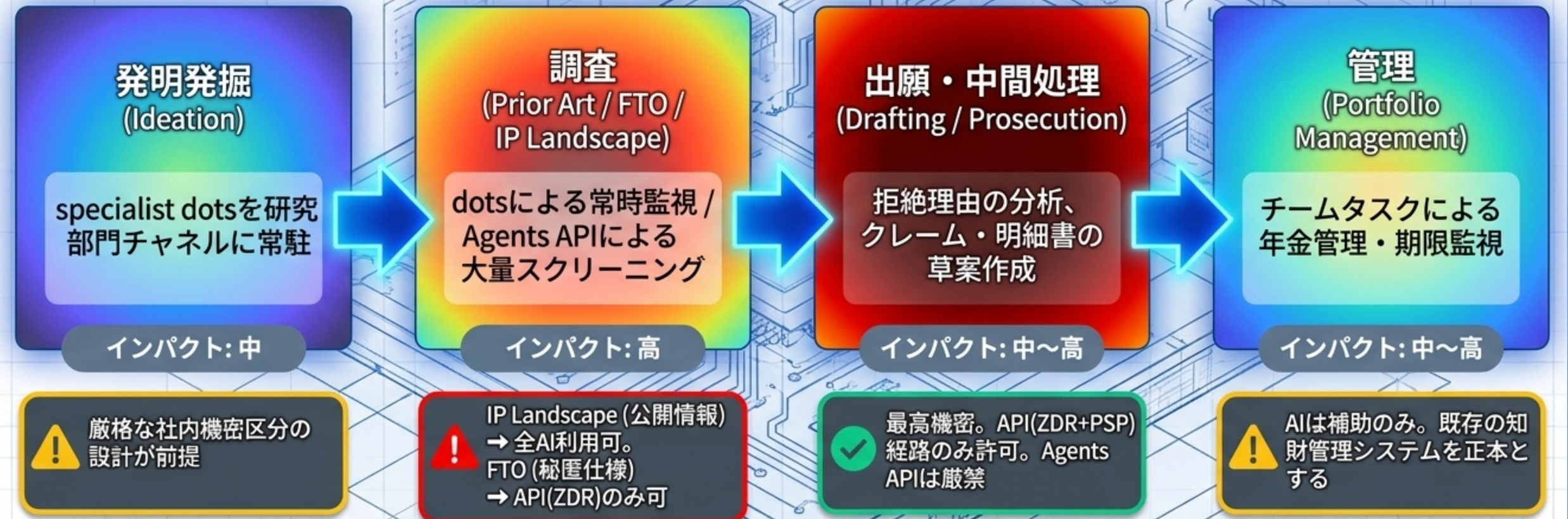
AI経路別・機密情報取り扱いマトリクス (The Data Routing Diagnostic)

	学習への利用	データの保持 (Retention)	人間による レビュー	未公開発明への 適合性
API (ZDR+PSP)	なし	ゼロ (顧客環境で30日)	なし	【YES】
ChatGPT Enterprise	なし	あり	標準はなし	【CAUTION】
dots	エンタープライズ はなし	あり (個別削除不可)	あり (安全目的)	【NO】
Agents API	不明	あり (ZDR非対応)	不明	【NO】

※「モデルをZDR対象外とする権利の留保」条項（事前通知あり）の存在に留意し、各社IT部門との連携が必須。

Gemini Notebook

知財ライフサイクルとエージェントの組み込み



Gemini Notebook

法的リスク1：新規性喪失とデータ保持リスク



法理論の世界 (Legal Theory)

特許法第29条1項「公然知られた」。一般解釈として、守秘義務を伴うAPIに入力しただけで直ちに「不特定の者が知り得る状態」となり新規性を失うとは考えにくい (※確定判例なし)。



プラットフォームの現実 (The Real Risk)

実務上の真の脅威は「保持と人間レビュー」。dotsの仕様では、個別のメモリ削除不可、プラグイン切断後も情報保持、安全目的の人間レビューの可能性が明記されている。

【結論】 「法的に公知化していないから大丈夫」という理屈は危うい。日本や米国の猶予期間に頼る運用を避け、特に欧州（EPO）出願予定案件では厳格な「保持ゼロ（ZDR）」経路の選択が絶対条件となる。

Gemini Notebook

法的リスク2：発明者性の証明とUSPTO「道具」整理

The Conception Log (AI関与発明記録)

1



AI Action: dotsが「頼まれる前に（Proactiveに）」技術的な解決策を提案する。

Human Action: 人間がその解決策を「着想・選択・検証」する。
このプロセスの証跡 (ログ) を必ず残す。



MUST LOG

3

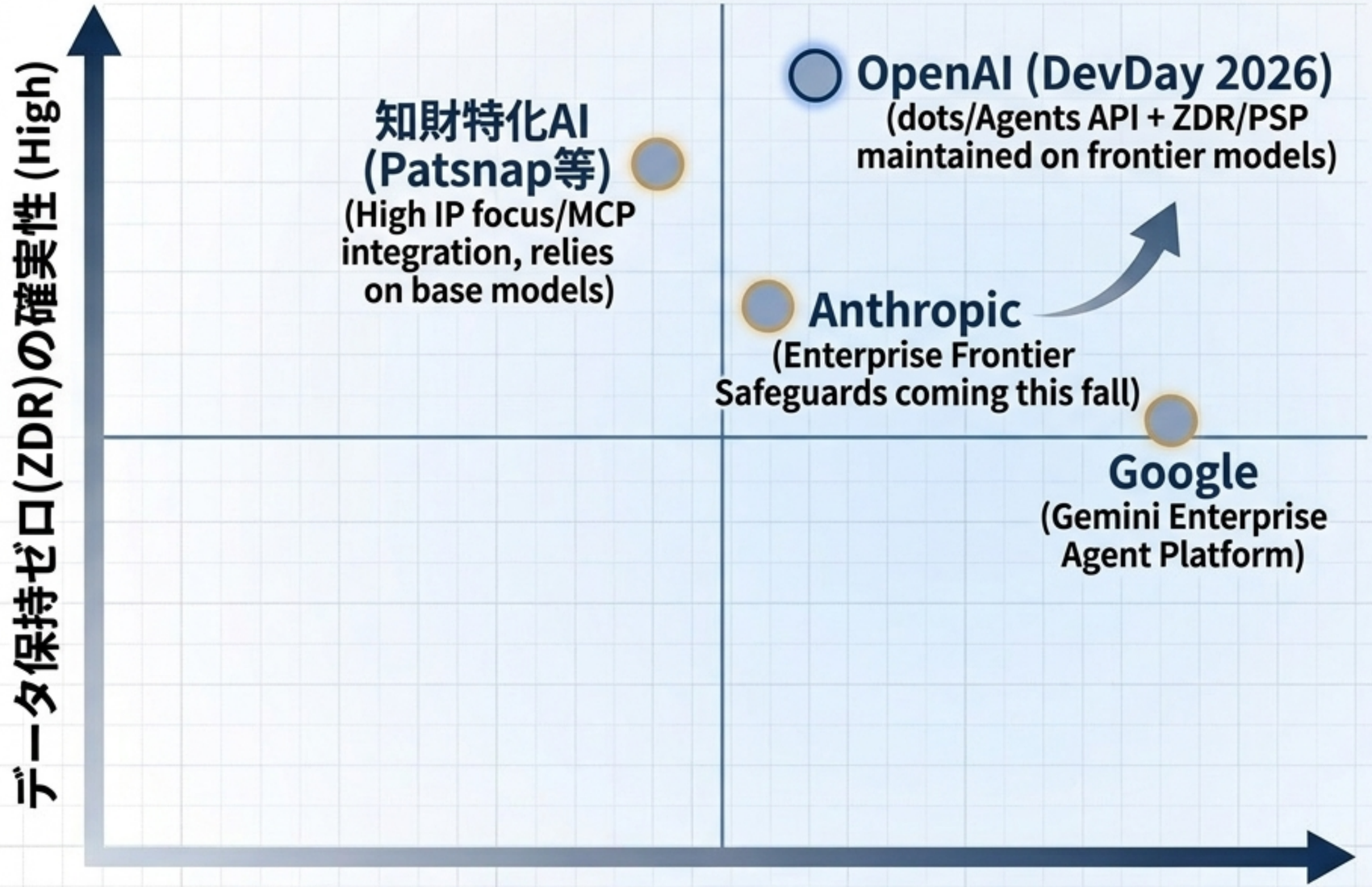


Legal Framework:
USPTO改訂ガイダンス (AIは単なる『道具』)。
日本の知財推進計画2026（人間の『創作的寄与の程度』を問う）。

エージェントが自律的にアイデアを出す時代、訴訟における発明者性否認のリスクを防ぐには、
「人間がいつ、どの要素を着想し、選択したか」の証跡（ログ）をシステマチックに残す運用プロセスが必須となる。

Gemini Notebook

生成AIベンダー・ランドスケープ (The Vendor IP-Safety Matrix)



OpenAIはこの秋、「最上位モデルでのZDR維持」を最大の差別化要因とした。

一方で、知財特化ツールの価値は、単なる要約UIら「独自データ（公報）の品質」と「検証可能な検索ログ」の提供へとシフトしている。

Gemini Notebook

アクションプラン（戦略ロードマップ）

	短期（Next 3 Months）	中期（Next 12 Months）
ルール整備 (Rules)	機密区分×利用経路マトリクスの公式制定（出願前発明＝API＋ZDR一択の徹底）	USPTO基準に対応する「AI関与発明記録（Conception Log）」ルールの策定
ITインフラ (Infrastructure)	ZDR/PSPの適格性確認とIT部門との調整（S3ストレージ要件・30日保持義務）	Agents API依存（ロックイン）を避けるマルチベンダー戦略・MCP準拠ツールの選定
業務設計 (Workflow)	公開情報（IPランドスケープ等）を用いたパイロット運用の開始	知財部員の役割を「作業者」から「AIエージェントの監督者・検証者」へ再定義

Gemini Notebook

留意事項と免責事項 (Disclaimers & Notes)

1. **情報の鮮度と確度:** 本資料は2026年9月30日時点（DevDay発表から約1日後）の 一次情報・二次情報に基づく。dotsのZDR適格性やPSPの詳細な技術白書書等は未確認の暫定評価を含む。

2. **自己申告データの扱い:** GDP.pdfのベンチマーク結果や利用者数（12億人）はOpenAIの自己申告値であり、独立した第三者検証を経たものではない。

3. **法的判断の免責:** 新規性喪失や発明者性に関する記述は一般的な実務的解釈の分析であり、確定した法的見解ではない。個別案件への適用にあたっは、必ず弁理士または弁護士の判断を仰ぐこと。

The Gate Blueprint
Gemini Notebook